

第7章 教育研究等環境

1. 現状の説明

(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

〈1〉大学全体

2009年に策定された学院中期計画では、学院全体の教育研究環境の整備に関して「施設・設備の充実・整備」を目標として掲げている。本学については「(1) エコ・環境に配慮したキャンパスづくり」「(3) キャンパス美化」「(4) 教育用設備の整備」「(5) キャンパスの保安体制の確立」を挙げている(7-1 p.181)。その後、常任理事会では、学院中期計画に基づく金城学院キャンパスマスタープラン「KMP 2 1」を承認し、学院広報を通じて、その概要を公表した(7-2 pp.1-3)。

「KMP 2 1」は、「多様な交流を促す空間の創出」「安心して使い易く、質の高い教育・研究環境の整備」「自然と共生する環境配慮型キャンパスの整備」という学院中期計画に沿ったコンセプトを掲げ、フェーズ1からフェーズ3まで、段階的にキャンパスを整備していく計画となっている。現在は、フェーズ1工事が進んでおり、礼拝堂と2棟の新校舎が建設中である。N1棟、N2棟と呼ばれる新校舎には、講義室と演習室以外に、食堂、音楽ホール、ラウンジ、ラーニングコモンズ、コンピュータ教室、実験実習室などを備えており、2014年度中の使用開始をめざしている(7-3)。

施設の改修や設備の更新については、2025年度までの年次計画が策定されており、毎年度状況を確認しながら、更新を実施している(7-4)。

また、防災については、「金城学院大学防災管理規程」に基づき、防災管理に必要な事項を定める「金城学院大学防災計画」を制定している(7-5 第9条)。「金城学院大学防災計画」では、「第4章 その他の項目」として「建物等の耐震診断等」から「自衛消防訓練の通知」まで、防災に関する平素の活動内容についても定めている(7-6 第43 -57条)。

(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

〈1〉大学全体

本学は、名古屋市の北東部に位置する守山区に本部を置く唯一の大学である。校地面積は、265,374 m²あり、大学設置基準に基づき十分な校地面積を有している(大学基礎データ)。その校地の中心には市道が通り、東校地と西校地に分かれている。大学校地の東側には、八竜湿地と呼ばれる約7,600 m²の湿原帯があり、絶滅危惧種を含む貴重な動植物が生息していて、愛知県などと協力して保護に当たっている。

校地以外の施設としては、最大34名が宿泊できる軽井沢スマイスハウスを所有し、合宿や研修会、ゼミ旅行、クラス会などに利用されている。また、2009年には、名古屋市栄地区に金城学院大学サテライトを取得し、就職活動支援やエクステンション講座に利用するとともに、特別授業や研究会などにも利用されている。2011年には、校地の近くに留学生会館を設置し、受け入れ留学生の宿舎とするだけでなく、本学学生との交流の場を提供している。

本学の校舎面積は、86,606 m²あり、大学設置基準に照らし十分な校舎面積を有している。前回認証評価では、東校地には、E1号館からE7号館までの校舎と本部棟、体育館、図書館、キリスト教センター、第1クラブハウス、第2クラブハウス、カルチャーコーナー、

第7章 教育研究等環境

心理臨床心理相談室について報告している（7-7 pp. 236-237）。その後、2008年度には本部棟近くの学生相談室と体育館南のクラブハウスを建設している。新たなクラブハウス完成にともない、第1クラブハウス、第2クラブハウスが解体された。また、前項に述べた「KMP 2 1」フェーズ1の完成にともない、E6号館（食堂）、キリスト教センター、カルチャーセンターが解体されることになっている。

前回認証評価では、西校地には、W1号館からW10号館までの校舎とランドルフ記念講堂、図書館、警備員室について報告している。その後、2009年度には図書館北にグラウンドが設置された。ただし、「KMP 2 1」フェーズ1の完成にともない、W1号館、W2号館、W4号館、W6号館が解体されることになっている。

前回認証評価では、講義室が86室、演習室が78室、語学教室が3室、コンピュータ教室が11室あり、そのほかに実験・実習をとまなう学科設置に必要な施設が配置されていることを報告した。2013年度においても、おおむね変更はないが、新校舎建築に際しては、教室の使用状況を精査し、広めの教室を必要数整備することとした。その結果、「KMP 2 1」フェーズ1完成後には、講義室が66室、演習室が47室、コンピュータ教室（新棟では語学教室を兼用）が9室となる予定である。

パソコンについても、前回認証評価の段階では、パソコンがコンピュータ教室に614台、自習室に43台配置していた。「KMP 2 1」フェーズ1完成後には、既存施設を合わせて、コンピュータ教室に671台、自習室に93台配置することになる。また、国際情報学部の学生は、授業で使用するため、すべてノートパソコンを所有している。

キャンパス・アメニティとしては、現在の食堂はE6号館1階508席、2階36席、W7号館1階586席の合計1130席となっている。「KMP 2 1」フェーズ1完成後には、E6号館1階に代わる食堂（新校舎1階598席、4階44席）ができるので、2014年度には、W7号館1階と合わせて1228席になる予定である。また、従来の体育館、バレーコート、テニスコート、ゴルフ練習場に加え、グラウンドやクラブハウスを整備したことで、S&Eなどの正課授業だけでなく、サークル活動などの課外教育を充実させてきている。

新たな校舎建設以外にも、整備の年次計画に基づき、本学はさまざまな施設や設備の整備を続けている。その中には、バリアフリー化を進める計画も含まれている（7-8）。

安全対策については、本部棟1階には防災センターがあり、防災センター要員が常駐し、夜間も校地を巡回している。また、西校地には警備員室があり、防犯のため人と車の出入りを確認している。また、授業時間帯には、女性警備員が巡回を行っており、女子大学ならではの安全確保に配慮している。

（3）図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

〈1〉大学全体

本学では「金城学院大学図書館規程」に基づき、教育研究活動に必要な資料を収集管理し、情報システム環境を整備している（7-9 第2条）。2012年度末の段階で、蔵書数は532,462冊、雑誌種類数は11,696種に上っている（7-10 pp. 84-89）。このほかに、2013年9月現在では電子書籍は256点あり、紙媒体の図書と同様に、図書館ホームページのOPACで検索することで、閲覧が可能となっている。また、2012年度に契約中

第7章 教育研究等環境

の電子情報は、電子ジャーナルがこの5年間で6倍に増えて、2,904タイトルとなり、データベースは21種類である(7-11)。

特色ある蔵書としては、三吉務氏の旧蔵書「三吉文庫」(2,727冊)と樋田豊治氏の旧蔵書「樋田文庫」(6,250冊)が、キリスト教関連の個人文庫として設けられている(7-12 p. 5、7-13 pp. 755-757)。また、国内で唯一のウェールズ語関連文庫として Sir Ifor Williams の旧蔵書「ウィリアムズ文庫」(4,853冊)を1994年に受け入れている(7-14 p. 1)。

資料の収集管理については、「金城学院大学図書館資料収集・管理規程」に基づき、2012年度には10,479冊の図書と2,131種の雑誌を受け入れている(7-10 pp. 84-89)。資料の購入については、図書費の7割を学科と専攻に配分し、残りの3割を図書館に配分して使用する。それぞれの学科と専攻における配分予算での購入については、学科と専攻に委託し、図書館配分予算については、図書館長と学部・研究科から選出された委員、図書館職員で構成する図書館委員会にて収集方針を決定している(7-15)。また、図書館配分予算で購入する継続タイトルについては、毎年、継続予算案審議の際に見直しを行っている(7-16)。

図書費が適正に執行されているか確認するため、2011年度には、図書館委員会で経年使用率について精査を行った。その上で、学科と専攻に対して、適正な執行に一層努力するよう要請し、大学自己評価委員会においても報告することで、大学全体で図書費の執行状況について確認している(7-17、7-18「2011年度図書館活動報告」)。

また、選書の充実を図るための取り組みも継続的に行っている。2007年度には、共通教育に必要な選書を充実させる試みを行っている(7-18「2007年度図書館活動報告」)。2008年度には、学生の読書のためのニーズに応えるため、東海地方初となる本格的な学生選書会を開催し、学生による選書の先進的な事例として報告も行っている(7-19 pp. 82-85、7-20 pp. 140-144)。2012年度からは、図書館が分野ごとの新刊情報をまとめ、学科と専攻に対して月1回のメール配信を行い、専門教育に必要な選書支援強化にも努めている。2013年度は、活動目標として「選書を一層適切なものにするための組織整備」を掲げ、図書館委員会で「学科・専攻図書委員の業務についての申し合わせ」を決定し、すべての学科と専攻に図書委員を設置した(7-21「図書館委員会活動報告」、7-22)。

図書館は、2006年度に西側部分の建て替え工事を行った。このリニューアル工事により、延床面積は5,811㎡から6,651㎡に拡大し、座席数は424席から566席に増えている。その結果として、図書館のバリアフリー化と閲覧室書架の増設、書庫の開放、視聴覚コーナーを拡充することができた。さらに、1階には、飲食可能なラウンジを設け、各種行事や展示の開催、部活動の発表の場などに活用されるようになった。リニューアル後は、入館者は増加し、その効果検証のためのアンケートでも、学生から高い評価を得ていた(7-23)。

2012年度末の段階で、本学は532,462冊の蔵書を有しており、研究室別置図書を除いても、492,683冊を所蔵している。本学図書館の収容可能冊数は496,667冊とされており、収容冊数は限界に近づいている。そこで、2012年度活動目標として「資料除却基準の見直し」を掲げ、諸規程の見直しを行い、個人研究費で購入した図書を図書館の蔵

第7章 教育研究等環境

書とせず、研究に活用しやすいようにした（7-18「2012年度図書館活動報告」）。2013年度には、大規模な除却計画と書庫の再配架計画を策定し、収蔵スペースの確保と有効利用を進めることを活動目標として掲げている（7-21「図書館委員会活動報告」）。

現在、通常授業期間は8時30分から20時まで開館し、通常授業外期間は9時から16時30分まで開館している。授業開始前の利用希望に応えるため、2008年度からは30分開館を早めた措置によるものである。

図書館職員は、専任職員5名、委託職員11名で運営している。このうち、夜間開館担当の委託職員2名を除いて、すべてが図書館司書の資格を保有しており、カウンター業務から目録作成まで、図書館職員として総合的なスキルを有する者を配置している。専任職員は、日常のレファレンスカウンターでの対応だけでなく、新入生オリエンテーションや上級生ガイダンス、PBL方式の授業支援など、積極的に学修支援を展開している。

本学では、図書館運営に学生ボランティアが参加し、大きな役割を果たしているのが特色と言える。2008年度に「ライブラリーサポーターズ」を結成し、学生が図書館運営に参加することが実現した（7-24 p.15）。2008年度に10名で始まった活動も、2013年度には31名に増えたことで、学生選書会や展示・イベント企画、各種ポスター類や広報誌の作成、案内版の見直しなど、学生目線による図書館運営の改善と活性に大きな役割を果たすようになった（7-25 pp.212-215）。

本学図書館は、1996年にホームページを公開し、学習や研究の支援を行ってきた。2012年に、3度目の図書館システム更新を行い、ホームページについても「シンプルでわかりやすいトップページ」「検索結果表示の高速化」「国立情報学研究所や国会図書館などのデータベースとの横断検索実現」「検索ナビゲート機能追加」「My Library 機能強化」などの改善が加えられた。

国内外の教育研究機関との学術相互提供システム整備としては、1993年にNII（国立情報学研究所）のネットワークに接続し、NIIのNACSIS-CAT（共同目録事業）への登録やNACSIS-ILL（相互協力事業）への参加を通して、他大学との学術情報の連携を行っている。国外では、米国のOCLC（Online Computer Library Center）のグローバルILLへの参加や、British Libraryへの資料請求等により、文献の提供と入手を行っている。また、私立大学図書館協会、東海地区大学図書館協議会、東海地区図書館協議会、薬学図書館協議会に加盟し、他の図書館との連携や協力体制を整えている。

（4）教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

〈1〉大学全体

本学では、実験・実習をともなう学科設置に必要な施設が配置されており、前回認証評価時の施設については、『WINDOWS vol.4』に記載されている（7-8 pp.238-239）。ただし、「KMP 2 1」フェーズ1工事完成により、施設に大きな変更が加えられるため、N1棟とN2棟に新設される関連施設について概観しておく。

文学部日本語日本文化学科については、「日本文化実習」「書道」を開講するため、和室と書道室が設置していた。新たなN2棟でも和室と日本文化実習室を設置し、引き続き実

第7章 教育研究等環境

習できるようにしている。2013年新設の音楽芸術学科については、N1棟にコンサートを開催できる音楽ホール「リリー・ハーモニー」を設置し、N2棟にキーボード教室と音楽スタジオ、ピアノレッスン室、アンサンブル練習室、個人練習室を設置する。

生活環境学部については、前回認証評価時と施設はほとんど変わらず、フェーズ2工事の際に、施設を設置する予定である。

国際情報学部国際情報学科については、テレビスタジオを使用した授業を行っているため、N1棟でもスタジオを設置し、新たにラジオブースを設置する。

人間科学部現代子ども学科では、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を育成するため、N2棟にピアノレッスン室以外に、子ども学実験実習室、子ども多目的演習室、子ども学教材開発室、美術実習室などを設ける。多元心理学科では、認定心理士、精神保健福祉士などを育成するため、N2棟に心理療法室、精神保健福祉士実習室、遊戯室、行動観察室、多元心理学実験・実習室、統計作業室、面接・検査実習室などを設置している。コミュニティ福祉学科については、社会保健福祉士と精神保健福祉士などを育成するため、コミュニティ福祉学科実習・資格対策室を設置する。

薬学部薬学科は、前回認証評価時に完成年度を迎えていなかったため、必要施設を挙げておく。薬学科は薬剤師を養成するため、西校地に薬草園、W10号館に専門実験室、薬学演習室、基礎実習室、TDN実習室、薬学セミナー室、模擬病棟、模擬病院薬局、模擬薬局、人工気候室、薬学情報ライブラリー、医療情報資料室を設置している。

自習スペースとしては、本学は校地各所にラウンジを設けており、授業外での学習が行われている。大学全体の自習室としては、言語センターが管理する自習室とマルチメディアセンターが管理する自習室(合計5室)があり、N1棟にもコンピュータ自習室とCALL自習室を設け、フェーズ1完成後も、十分な自習スペースを提供する。また、新たな学びに対応できる場として、N1棟3階には、新たにラーニングコモンズを設置する。ラーニングコモンズでは、ノートパソコンの貸し出しなどの学習支援も行う。イベントなどを開催して学生の知的好奇心を刺激し、グループ学習や学生同士の交流を促す役割を果たすことが期待される。

本学には、学部学科および必要とされる部署に実務助手と呼ばれる教育研究支援職員が配置され、現在22名が担当している。また、ティーチングアシスタント(TA)については、「金城学院大学ティーチングアシスタント規程」で、学生の教育効果を高めるために、教育的業務の補助を担当すると、その役割が明記されている(7-26第2条)。

言語センターでは、専任職員1名と実務助手2名が配置されている。実務助手は、教員や学生の質問への対応だけでなく、言語センターが管理する施設の維持管理と教材作成やTOEIC関連業務を行っている。また、自習室にTAを配置し、英語学習のサポートを行っている。

マルチメディアセンターでは、専任職員1名と非常勤職員1名に加え、実務助手2名が配置されている。実務助手は、情報教育に関わる授業補助のほか、大学院生であるTAと学部生であるスチューデントアシスタント(SA)の統轄業務を担当している。TAは情報教育科目の授業補助を行い、TAは、自習学生の質問に対応している。

このほかの教育研究支援としては、第4章でもすでに触れた授業アシスタントがある。本学では履修者数上限を120名とするが、やむを得ず履修上限を超える場合は、授業アシ

第7章 教育研究等環境

スタントを雇用することができる。

教員の研究費については、2013年現在、個人研究費として理系専任教員が360,000円、文系専任教員が312,000円、助教が200,000円支給されている。また、学部学科と研究科専攻に対して図書費や設備費が配分されており、教育研究の必要に応じて使用することができる。このほかに、金城学院大学特別研究助成費、金城学院大学父母会海外・国内研修助成費を設けている。前者は「金城学院大学特別研究助成費取扱規程」に基づき、特別研究助成費選考委員会が厳正に審査し、交付を決定する。助成対象研究等の期間終了後、交付を受けた者は、研究成果の発表が義務づけられている（7-27 第14条）。後者は「金城学院大学父母会海外・国内研修助成費規程」に基づき、父母会研修助成費選考委員会が厳正に審査し、交付を決定する。研修等終了後2カ月以内に、交付を受けた者は、報告書を提出することが義務づけられている（7-28 第13条）。2012年度は、特別研究助成費が14,234,600円、父母会海外・国内研修助成費が2,002,845円交付された。

本学では、大学院生への研究支援として、2013年に「金城学院大学大学院学生会発表旅費交通費助成規程」を制定し、学会発表に必要な旅費交通費を助成することになった。各年度の助成対象者は海外4名、国内10名を限度とし、大学院生は前期課程で2回、後期課程で3回申請することができる（7-29 第2項、7-30 第5条）。

教員の研究室については、短期契約外国語教員を除く専任教員それぞれに28㎡以上の研究室1室を配当している。そのほかに、実験系の教員のために研究室とは別に実験室を設けている。

教員の研究期間確保については、2010年に従来の海外および国内研究制度と特別研究期間制度を、新たな特別研究期間制度に一本化した。この一本化により、大学全体で毎年15名の教員が半期の研究期間を確保することが可能になり、その選考に際しては、若手教員が適用しやすい条件となっている（7-31）。この制度により、従来運用されていた海外および国内研修制度に比べ、まとまった研究期間を取得しやすくなり、2010年度は6名、2011年度は6名、2012年度は9名、2013年度は6名の申請が採択された。

（5）研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

〈1〉大学全体

本学では、実験研究における研究倫理と安全管理を徹底するため、「金城学院大学におけるヒトを対象とする研究に関する倫理指針」「金城学院大学動物実験指針」「金城学院大学遺伝子組換え実験安全管理規程」を制定し、これら規程に基づく委員会を設置し、適切な研究が行われるように管理している。

また、研究倫理を遵守するために必要な研究資金を適切に取り扱うための規程整備も進めてきた。文部科学省科学研究費補助金に関する取り扱いについては「金城学院大学文部科学省等科学研究費補助金取扱規程」を制定し、適切な使用について徹底している。また、報道された他の研究機関における不正使用の例を掲示するなどして、不正使用の防止を周知している。

さらに、知的財産の管理活用に関しては、「金城学院大学知的財産規程」に基づき「金城学院大学知的財産の管理・活用等に関する委員会規程」を制定し、共同研究に関しては、

第7章 教育研究等環境

「金城学院大学共同研究規程」に基づき、「金城学院大学共同研究料取扱規程」を制定している。いずれも知的財産や共同研究料を取り扱う際に研究倫理を遵守することを求めている。また産学官連携活動に際して、生じる可能性がある利益相反については、「金城学院大学利益相反ポリシー」の方針として定め、「金城学院大学利益相反マネジメント委員会規程」に従い適切な研究活動が行われるよう、利益相反マネジメント委員会が管理している。

2. 点検・評価

●基準7「教育研究等環境」の充足状況

本学では、キャンパスマスタープラン（KMP 2 1）に基づき、魅力あるキャンパスを整備しているところである。図書館では、蔵書の収容可能限界に対する心配はあるが、学生参加による収書など個性的な活動を積極的に展開している。また、TA や SA などの教育支援体制は、十分に整備されており、教員の研究環境では、特別研究期間制度などで改善が行われている。研究倫理では、全体方針は定められていないものの、各分野の方針や規程は整備されている。以上の点から、本学はおおむね求められる基準を充足していると判断できる。

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

「2012 年度意識調査学生アンケート」問 29⑥では、全体的な学内の諸施設の充実度に対して、73.7%の学生が肯定的な評価（「満足である」「どちらかといえば満足である」）をしており、現状でも必要な施設を整備していると判断できる（7-32 問 29⑥）。さらなる教育環境の充実をめざしたKMP 2 1は、到達目標を具体化した方針であり、教育研究等環境整備に関する方針の明確化を果たしたものと言える。前述のようにこの方針に基づき、現在は礼拝堂と2棟の新校舎を建築しているが、これまでの使用状況を検証した上で、教室や施設を配置しており、これまで以上に利用しやすい環境を実現する予定である。また、「多様な交流を促す空間の創出」という到達目標に基づき、礼拝堂を中心としたセンターコートを整備し、学生にとって居心地の良いキャンパス・アメニティ形成をめざしている。その中には、食堂の充実やラーニングコモنزの新設が含まれており、新たな学習と交流の場を提供している。キャンパスの安全管理についても、防災センターを中心とした管理体制を構築し、女性警備員の巡回などの配慮も行っている。「2012 年度意識調査学生アンケート」問 15 では、本学の安全対策について 72.1%が「学内のすべてにわたって安全上の問題はないと思う」としており、学生は安心した学生生活を送ることができていると判断できる（7-32 問 15）。

図書館委員会は、学科と専攻に適正な図書費の執行を要請しており、資料収集システムの改善に主導的な役割を果たしている。また、個人文庫の充実や学生による選書など、積極的に特色ある資料を収集しようとしている試みは評価できる。また、図書館の運営についても、利用時間の拡大や図書館スタッフの充実など、利用環境の改善は進んでいる。

「2012 年度意識調査学生アンケート」問 14⑤の図書館窓口の満足度では、肯定的評価（「満足である」「どちらかといえば満足である」）が 80.1%となっており、問 29⑦の図書・資

第7章 教育研究等環境

料の満足度では、肯定的評価が 85.8%となっており、問 29⑧の検索サービスの満足度では、肯定的評価が 87.9%となっており、いずれの点においても、図書館として学生から高い評価を受けている（7-32 問 14⑤、問 29⑦、問 29⑧）。

教員が研究に専念できる環境整備については、個人研究費と個人研究室のいずれも確保されている。また、これまで研究専念期間が確保しにくい現状を改善し、特別研究期間制度を充実した。これにより、若手教員が研究に専念できる環境が確保されている。

②改善が必要な事項

〈1〉大学全体

図書館については、蔵書数が収容可能冊数の限界に近づいている。また、「2012 年度意識調査学生アンケート」問 26 では、37.3%の学生が図書館を「ほとんど利用していない」としており、利用に積極的でない学生に対する利用の働きかけが必要である（7-32 問 26）。

教員の研究に専念できる環境整備については、研究助成に対する教員の応募が少なく、募集を追加した年度もあった。応募しやすい研究助成制度を整備するとともに、外部資金の獲得を支援していく必要がある。

本学の研究倫理遵守に対する姿勢を示す方針が定められていない。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

「KMP 2 1」については、フェーズ 1 完成後も、フェーズ 2、フェーズ 3 と計画全体の実現をめざしていく。また、礼拝堂と 2 棟の新校舎については、完成後も引き続き施設の充実をめざす。特に新設されるラーニングコモンズについては、運営体制も含めて、利用しやすい施設となるように準備し、利用開始後も改善を続けていく。

図書館については、すべての学科と専攻に図書委員を設置し、図書館委員会を中心とした資料の収集と管理する体制が構築された。今後は、学科と専攻の図書委員が十分その役割を果たし、本学の教育と研究に必要な資料を計画的に収集することをめざしていく。また、ライブラリーサポーターズなどの学生参加を一層促し、学生の意見を反映した図書館運営を実現していく。

特別研究期間制度に一本化して、すでに数年経過している。これまでの利用状況を調査し、若手教員を始めとした研究活動を必要とする教員に十分に利用されているか検証する。その上で、さらに利用しやすい制度となるよう、選考基準の見直しなどを行う。

②改善が必要な事項

〈1〉大学全体

ライブラリーサポーターズなどの知恵を活用するなど、教職員が学生有志と連携しながら、すべての学生が利用したいと思うような魅力ある図書館づくりを実現する。そのために、2014 年度の図書館活動目標には、「(1) 読書奨励活動の推進」を掲げ、学生の利用を高めることをめざしている（7-21 「図書館委員会活動目標」）。図書館委員会で長期的な蔵

第7章 教育研究等環境

書数管理の計画を策定して、今後も安定的な資料管理が続けられる環境を整える。

教員へのアンケートを含めた研究助成制度の利用状況を調査し、利用しやすい制度へ改善する。また、科学研究費補助金を始めとした外部資金に関する情報を積極的に案内し、必要な情報を提供する説明会などを充実させる。教員の研究活動に必要な資金を獲得できる支援体制を構築する。

研究業績の発表倫理など、現在注目され始めた研究倫理について検討した上で、本学がどのように研究倫理を遵守しようとしているか方針を定め、社会へ公表していく。

4. 根拠資料

- 7-1 『DOUBLE JUBILEE 120/60』(既出 資料 1-1)
- 7-2 「with Dignity vol.19」(<http://www.kinjo-gakuin.jp/document/dignity19/all.pdf>)
- 7-3 「KMP 2 1 フェーズ 1 概要」
- 7-4 「長期修繕更新費大学全体集計表」
- 7-5 「金城学院大学防災管理規程」
- 7-6 「金城学院大学防災計画」
- 7-7 『WINDOWS vol.4』(既出 資料 1-3)
- 7-8 「2008 年度～2012 年度学事報告書 VI主要施設設備関係事項」
- 7-9 「金城学院大学図書館規程」
- 7-10 「2012 年度学事報告書 V図書館に関する調」
- 7-11 「2013 年度第 2 回図書館委員会報告資料 (図書館経年統計)」
- 7-12 「愛知図書館協会会報 No.180」
- 7-13 『金城学院百年史』
- 7-14 『Newsletter Vol.12 No.1 』
- 7-15 「2011 年度第 1 回図書館委員会資料 (図書館予算分で購入する資料)」
- 7-16 「2013 年度第 3 回図書館委員会資料 (図書館分継続資料予算)」
- 7-17 「2011 年度第 5 回図書館委員会資料 (図書費経年使用率)」
- 7-18 「2007 年度～2012 年度活動報告」(既出 資料 1-24)
- 7-19 『館灯第 47 号』
- 7-20 『薬学図書館 vol. 57 no.2』
- 7-21 「2014 年 3 月 5 日大学自己評価委員会資料 (2013 年度活動報告・2014 年度活動目標)」(既出 資料 1-36)
- 7-22 「2013 年度第 4 回図書館委員会資料 (学科・専攻図書委員の業務についての申し合わせ)」
- 7-23 「2008 年度第 3 回図書館委員会資料 (図書館利用者アンケート (結果報告))」
- 7-24 「with Dignity vol.14 」(<http://www.kinjo-gakuin.jp/document/dignity14/all.pdf>)
- 7-25 『薬学図書館 vol.58 no.3』
- 7-26 「金城学院大学ティーチングアシスタント規程」
- 7-27 「金城学院大学特別研究助成費取扱規程」

第7章 教育研究等環境

- 7-28 「金城学院大学父母会海外・国内研修助成費規程」
- 7-29 「金城学院大学大学院学生学会発表旅費交通費助成規程に関する申し合わせ」
- 7-30 「金城学院大学大学院学生学会発表旅費交通費助成規程」
- 7-31 「特別研究期間制度への申請者決定に関する申し合わせ」
- 7-32 「2012年度意識調査学生アンケート」（既出 資料 1-21）